

「復興農学会」事務局会議（第21回）議事録

文責 新田 洋司（福島大学）

日時 2020年10月26日（月）15時00分～15時45分

方法 ZoomによるWeb会議

出席者 溝口 勝（東京大学）、杉野 弘明（同）、黒瀧 秀久（東京農業大学）、新田 洋司（福島大学）、石井 秀樹（同）、横山 正（同）
（敬称略）

議事録

1. 学会誌の内容・編集等について（横山・新田）

（1）本学会および学会誌の英名について

新田、横山 特任教授より本学会および学会誌の英名について、これまでの検討結果や出された案について説明があり、いくつかの最終案が示された。

審議の結果、学会の英名については、復興庁の英名が Reconstruction Agency であること（Restoration（復旧）は使っていない）、シンプルな名称がよいこと、略称が他の大きな企業・団体等が使っているものと同じにならないこと等を考慮して、Society of Reconstruction Agency (SRA)とすることに決定した。

また、学会誌の英名については、「Science …」を冒頭に付すと学術的な色が強くなり、農家や市民、自治体等も参加する本学会の学会誌の名称としてやや敬遠されそうなニュアンスになるため避けた方がよいと考えられること、上記の学会の英名に近くシンプルな名称がよいこと、農業を中心としつつ社会科学など広い分野を含む学会であることがわかるようにしたいこと、略称が他の大きな企業・団体等が使っているものと同じにならないこと等を考慮して、Journal of Reconstruction Agriculture and Sciences (JRAS)とすることに決定した。

（2）第1号の投稿論文等の締め切りについて

新田、横山 特任教授より学会誌第1号の投稿論文等の締め切りを11月末としたいとの提案があった。審議の結果、了承された。

（3）第1号のコンテンツについて

黒瀧 教授より学会誌第1号のコンテンツについて、「復興知」事業実施大学の取り組みを紹介する記事と、コンテンツ・原稿収集状況等の一覧の整理が必要との意見があった。また、溝口 教授より、会長に「巻頭言」などを原稿執筆を依頼してはどうかとの提案があった。

審議の結果、了承された。また、横山 特任教授がまとめて次回の本会議で提示することとなった。

2. 事務局会議の今後の運営・開催方法等について（新田）

新田より、本事務局会議はメンバーが多忙をきわめていて、ここ数回出席者が少なく、運営・開催方法等について再度検討したいとの提案があった。また、本事務局会議メンバーが、本学会の運営の全般に関わっていることから、現状においては部門制は採用しない方がよいとの説明があった。審議の結果、本事務局会議の有効な運営・開催方法等について、新田がメンバーに意見を聴取し（「伝助」利用）、次回の本会議で案を提案することとなった。

3. 「第5回 東京農業大学・浪江町復興講座」の共催について（黒瀧）【資料】

黒瀧 教授より資料にもとづいて、第5回 東京農業大学・浪江町復興講座の開催について紹介があり、

参加の依頼があった。また、本学会への共催の依頼があり、審議の結果、了承された。

4. その他

(1) 本学会への寄付の申込書について

溝口 教授より本学会への寄付の申込書が必要であり、作成して、Web 版、紙媒体版を Web にアップしたいとの提案があった。審議の結果、了承された。また、新田が原案を作製して溝口 教授に提案することとなった。

以上

今後の予定

- ・事務局会議（第 22 回） 2020 年 11 月 2 日（月） 15 時 00 分～16 時 00 分 Zoom による Web 会議
- ・第 5 回東京農大・浪江町復興講座、本学会共催、2020 年 11 月 7 日（土） 13 時 30 分～15 時 30 分、道の駅なみえ・Zoom
- ・「福島フォーラム」、本学会共催、2020 年 11 月 9 日（月） 16 時 30 分より 福島大学食農学類みらいホール・Web 話題提供：尾形 慎 准教授
- ・「福島フォーラム」本学会共催、2020 年 12 月 21 日（月） 16 時 30 分より 福島大学食農学類みらいホール・Web 話題提供：二瓶 直登 准教授